

## 皮膚損傷に係る薬剤投与関連

区分別科目



(A) 抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整  
抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の  
局所注射の適応と使用方法及び投与量の調整 (2)

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科

緒方 大 氏

# 演習 抗がん剤その他の薬剤が 血管外に漏出したときの ステロイド薬の局所注射の適応と 使用方法及び投与量の調整

国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科  
緒方 大

## 症例 1

重症急性膵炎に対して加療を受けた80歳女性  
右下腿の末梢静脈ルートから、メシル酸ガベキサートが投与されていた。  
投与後、点滴部位が潰瘍化し、近医で軟膏処置を行ったが  
改善が見られなかった

この写真からみられる所見はなにがあるか？



### この症例から学ぶこと①

通常の血管外漏出対応

- ✓ 冷却とステロイド軟膏塗布
- ✓ 血管外漏出が明らかな場合→ステロイドの局所注射

## この症例から学ぶこと②

静脈ルート穿刺部位は適切であったか？

## 症例 2

65歳、男性

幼少期の熱傷受傷部位に生じた皮膚有棘細胞癌の肺転移に対してシスプラチン・アドリアマイシンによる化学療法を受けている。これまでに10コースの治療を受け、本日も通院治療センターで同レジメンを施行予定であった。

## 症例 2

点滴開始から10分後、患者より点滴刺入部の  
痛みの訴えがあった。

患者を担当しているあなたは  
同部位に発赤がみられていること確認した。



この状況でとるべき行動について考えましょう

## 症例 2

壊死起因性抗がん剤が漏出したことが分かった  
局所処置として取るべき対応は？